

国際ロータリー第2560地区  
ガバナーテーマ

ロータリーで良いことをしよう

高田ロータリー  
今年のスローガン

変化を楽しもう



ロータリーは機会の扉を開く

2020～2021年度

国際ロータリー会長 **ホルガー・クナーク**  
2560地区ガバナー **佐藤 真**  
高田ロータリー会長 **大島 誠**  
幹事 **伴 長門**

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号  
TEL (025)526-3288 FAX (025)526-3534  
メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp  
例会場：デュオ・セレッソ TEL (025)526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員会：  
齋藤 尚明・飯塚 宏佳・佐藤 信・川崎 直哉・齋藤 俊幸

第 20 回例会 ◆12月 11 日(金)

No.20

会長挨拶 ●大島 誠



こんにちは。皆様お元気ですか？

「ラニーニャ現象」が発生している今年の冬は大雪になるかもしれないと、10月23日の例会のご挨拶でお話ししましたが、今のところは全く外れています。来週からシベリア高気圧が本州付近にまで張り出してくるとの予報です。どうなるでしょうか。

さて、本日は糸魚川ロータリークラブの本年度幹事 樋口浩さんからロータリーの活動を超えてのご依頼がありましたので紹介いたします。樋口さんの息子さんは樋口大悟さんと言われ、俳優さんだそうです。大悟さんは白血病を2回発症され、骨髄移植を経て現在は元気に活躍されているとの事。その経験を元に、白血病患者と骨髄を提供するドナーの双方の人生を映画化し、白血病への理解を深めて頂きドナー登録者の数をもっと増やしていきたいとの活動をされています。その映画製作の為に資金をクラウドファンディングで集めたいとお申し出でした。クラブとしての対応は出来ませんが、皆様ご理解の上、ご協力いただければと思います。

また、高田クラブの社会奉仕委員会が企画実施していますアールブリュット展、13日が最終日です。まだご覧になっていない方、例会後に足を運ばれてはいかがでしょうか。

出席報告

93.75%

ビジター

佐藤明臣君（新井妙高 RC）、  
神谷優李さんご家族

セレモニー



米山記念奨学金贈呈  
周 勝男さん

メイクアップ

高坂光一君（糸魚川中央 RC 卓話）

委員会報告

出席ニコニコ BOX 委員会

山崎公一君：私事で恐縮ですが、先週 私の娘が  
学校推薦試験にて国公立大学に無事合格する  
ことができました。ありがとうございました。

神谷勇一君（糸魚川中央 RC）

親睦委員会

12月のお誕生日各お祝い



## 幹事報告

配布物：週報No.19、高田さくらロータリー衛星クラブ発足式記念誌（出席者）、映画『みんな生きてる二つ目の誕生日』制作プロジェクトクラウドファンディング

報告:12/18 クリスマス例会(宇喜世 18:30~)

## 1月の例会プログラム

例会日	プログラム	会場
1月1日	法定祝祭日（休会日）	—
1月8日	新年初例会＜夜例会＞	デュオ・セレッソ
1月15日	祝日振替休会日	—
1月22日	卓話・演題 未定	デュオ・セレッソ
1月29日	卓話・演題 未定	デュオ・セレッソ

### 卓話

### Rotary 青少年交換留学を経て ～国際平和を考える～

県立高田高等学校 3年 神谷 優李さん



2019年度ロータリー交換留学生長期派遣事業でドイツに派遣して頂きました神谷優李です。私はドイツで非常に多くのことを学びました。ロータリーの皆様に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

本日は、私がドイツ留学を通して考えたことや成果、また、これまで行ってきた平和活動についてもお話させていただきます。よろしくお願いいたします。

私は、幼い頃に戦後の国際平和に関心を持ち国連難民高等弁務官として活躍する日本人女性の緒方貞子さんに憧れを抱きました。高校1年生になり、私は高校生平和大使に就任しました。高校生平和大使は、核兵器廃絶と世界の平和を願う署名活動を行ったり国内外において平和を訴えるスピーチを行います。また、外務省ユース非核特使も兼任し、国連でのスピーチや各国大使・外交官との対談、集めた署名を国連に提出します。私は、高校生平和大使としての活動を通して各国の合意形成は難航を極めることを実感しました。しかし、国連軍縮部長との対談の際に相手のことを理解・尊重し議論の中で合意点を探していくことで、同じ目標に向かって国際社会として歩んでいけるのではないかと考えるようになりました。

高校3年生になり、私はかねてより関心があった難民問題を学びたいと考え、難民受け入れ先進国であるドイツに留学させて頂きました。ドイツでは、本当に多くのことを学ぶことが出来ました。まず、多文化についてお話しします。私は、ドイツの家庭にホームステイしました。ドイツ人と日本人は勤勉な性格が似ているとよく言われますが、やはりアジアとヨーロッパですので、かなり違う点もあります。思ったことをはっきり言う文化は私にとって難しいと感じる場面もありました。戸惑うこともありましたが、郷に入っては郷に従えの精神で何事にも挑戦しました。また、世界14カ国から来た学生との交流は非常に刺激的なものでした。そして、私はドイツ語の習得に勤めると共にドイツの高校でスペイン語も学びました。続いて、難民との交流についてです。私は、留学生活の中で難民と交流を重ねるようになりました。ドイツでは、難民を地域社会で包括するために「難民カフェ」というものが存在します。シリアやアフガニスタン、アフリカ系の難民がそこには集い、ドイツ語を学び、子供たちは学校の宿題をしたり遊んだりしていました。私も放課後はそこに行き、彼らと話をしたり子供たちと遊んだりしました。本やニュースでは得られない情報やイスラム文化、そして、難民受け入れの正と負の面について知りました。

私は、将来、難民支援を多文化共生と社会福祉の面から展開していくことで難民受け入れの問題を解決していけるのではないかと考えました。難民受け入れというと、日本ではあまり関係ないと思われてしまいがちです。しかし、現在の日本は深刻な少子高齢社会であり、労働人口の不足を補うためには海外から多くの人々を受け入れなければならない状況に置かれています。政府は、移民や技能実習生に関する法改正などを行っていますが、実際に海外から来た人々が日本社会の中で暮らしていくにはまだまだ問題が山積しています。多文化共生や社会福祉について学ぶことでこれらの問題の解決にも貢献していけるのではないかと考えます。大学では、政治や法律、多文化共生について学べたらと思っています。また、今後はローテックスとしてこれから世界に出ていく後輩達の助けになれるように頑張りたいと思っています。

本日は、ご清聴ありがとうございました。

